

自治体 あいちの仲間

発行所 自治労連愛知県本部 名古屋市北区柳原三丁目7番8号
URL http://www.jaichi.jp TEL 052 916-2251
Eメール info@jaichi.jp FAX 052 916-2308

2011 3.10
No.1022

発行責任者 伊藤 慎次 定価 10円
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

3・17自治労連 全国統一行動



「働きやすい職場づくりをめざします」と
竹内書記長(左)・小山書記次長(右)

豊橋市民病院は、東三河の基幹病院として、救急患者を受け入れ、高度医療を提供しています。10年7月より7対1看護体制を導入。しかし、看護師の人数はギリギリでのスタートとなりました。豊橋市職労・病院支部では、「風通しのいい職場をめざして」、各分会の職場の状況や声を集め、病院支部ニュース「うえいぶ」でとりあげ、全分会リレーをしています。

いかにせ憲法25条

「2・27春をよぶあいち 大集会」に2000人



「社会保障の充実を」と
沿道の人たちへアピール

「社会保障を自己責任にするな」「いのちを守り育てる社会保障は国の責任で」と、2・27春をよぶあいち大集会が、名古屋市・久屋広場で開かれ、労働組合や医療・福祉団体など2000人が参加しました。主催者あいさつに立った、徳田秋・愛知県社保協議長は、「医療や教育、福祉

は、「保険あつて介護なしの状態を打開し、介護職員の処遇改善、高齢者が安心してくらせる制度改革」と訴え、医療分野からは、医師・看護師不足で医療崩壊が広がっており、「国民のいのちと健康が脅かされている。誰もが安心して医療を受けられるように国は責任を果たせ」と訴えました。

いま、自治体の仕事をすすめていくためには、非正規労働者の存在はかせません。その処遇は劣悪で、最低賃金すれすれ、手当て支給されず、官製ワーキングプアという非正規労働者もいます。しかし、劣悪な処遇であっても、住民サービスを支え、重要な役割を果たしている非正規労働者の「誇り」。この実態を踏まえ、非正規労働者をモノのように扱っている自治体当局への「怒り」。この「誇りと怒り」の声を束ね、処遇改善の運動につなげていくことが、労働者全体の労働条件改善と、住民サービスの向上にとって重要です。この「雇用の安定と均等待遇の実現で、より良い住民サービスをめざす」と「誇りと怒り」の大運動が、全国でとりくまれています。県内の各単組でもとりくまれ、非正規労働者の喜びと願い、怒りの声があんけんに寄せられました。

雇用期間が決まっていること、今後の生活に不安がある。仕事に慣れ楽しくなってきたところでやめなければいけないのは残念(保育士)・半年ごとの契約が続いていつも不安です(一般事務)・1年雇って2ヶ月あけて再度雇うにチキナやり方に非常に怒りを感じる(6ヶ月雇用だが、6ヶ月で仕事はわからない!!)と思う。実質は何年も働いて、正規の人よりも仕事がよくできる人が多い(5年という期間は一見長いように思えますが、仕事内容は正規職員と同じレベルでこなしている。継続されない不公平を感じる(一般事務))

ニュースで職場をつなぎ仲間の声を要求に

豊橋市職労・病院支部

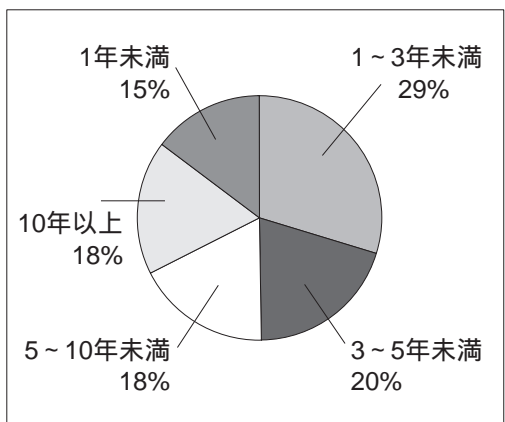
「多くの職員は年休を1〜2日しか取得できず、多くの部署で忙しさが変わらず、毎日残業が続いています」「看護師不足で導入したため、夜勤のできる看護師は勤務異動になり、7対1看護体制に該当しない部署は、深刻なマンパワー不足で夜勤回数や時間外の増加など逆に忙しさが増えています」と、竹内書記長は過酷な病院の労働実態を語ります。

「時間外の申請をしても認めてもらえないのは、自分の労働を認めてもらえないのと同じことで、とても悲しい」「患者の看護度が高

く、食事休憩も取れず働いている」「夜勤回数が9回を超えている状況が数ヶ月も続いています。早急に増員を」「860床を3人のケースワーカーで対応している。充分に支援ができるだけの増員を」「この10年間で才は1000件も増えているが、看護師の定数は増えない。誰が倒れてもおかしくない」「子育て中の職員が退職せずに働きつづけられるよう改善を」「たくさん問題。声寄せられました。」「職場の問題。声を掲載することで、読者が増えました。組合員から反応もあ

ります。当局からも反応があり、医療相談室のケースワーカー人員要求の話合いを、病院事務局長を交え行つたのとおりくみも。確定闘争では、支部として分会からあがった声をまとめ、離職防止など要求しました」とまさに、「目に見える活動を実践しています。」「私たちは地域医療を守るため、質の良い医療・看護の提供のため、病院に働くすべての職員が働きやすい職場づくりと、看護体制の充実・人員増を求め、引きつづきがんばります」と職場からの運動を広げていきます。

誇りと怒りのアンケート動続年数



非正規労働者「誇りと怒り」の声束ね処遇改善へ

入へはたらきかけて下さい。雇用期間が決まっていること、今後の生活に不安がある。仕事に慣れ楽しくなってきたところでやめなければいけないのは残念(保育士)・半年ごとの契約が続いていつも不安です(一般事務)・1年雇って2ヶ月あけて再度雇うにチキナやり方に非常に怒りを感じる(6ヶ月雇用だが、6ヶ月で仕事はわからない!!)と思う。実質は何年も働いて、正規の人よりも仕事がよくできる人が多い(5年という期間は一見長いように思えますが、仕事内容は正規職員と同じレベルでこなしている。継続されない不公平を感じる(一般事務))

たまたかつてこそ未来輝く

東海北信ブロック青年学習交流集会

3月5〜6日、長野県阿智村にて東海北信ブロック青年学習交流集会「あちあちセミナー」が行われ、57人が参加しました。

実行委員長の加藤有香さん(名古屋市中職労)は、「交流と、しっかり学ぶことで、青年部活動を盛り上げよ」と、職場における賃金制度の特

徴と課題」を愛知県本部の村田書記次長が講演。「公務員にかけられている攻撃の矛盾や生計費原則の重要性、11春闘情勢など、影響が大きい青年こそが賃金要求を握って離さないこと。学習と組織拡大が大切」と

習日は、岡庭一雄・阿智村長が「自治と協働」のタイトルで記念講演。岡庭村長は、冒頭、住民が温泉を公共財ととらえ、健康福祉の唇神温泉を形成したことが女性・高齢者の支持を得ていることに触れ、「役場の職員が正しい情報を住民に知らせ判断してきたことが正しかった」と説明。迷走する民主党政権や名古屋の河村市政を分析、「住民は顧客でいいのが、安いサービスを提供すればいいのか。議論が不足している」と、憲法の立場が大事であることを強調。その上で、「すべての住民が公共に関わる権利を有する。職員はその専門性を発揮し、住民の行政参加を支えて欲しい」と訴えました。さらに、



グループに分かれてクイズに挑戦

しっかり たっぷり 学んで・交流できた

あちあちセミナー

青年組合員の奮闘を訴えました。また、「民間労働者と公務労働者の違い」など3テーマでグループ討論をおこないました。

翌日は、岡庭一雄・阿智村長が「自治と協働」のタイトルで記念講演。岡庭村長は、冒頭、住民が温泉を公共財ととらえ、健康福祉の唇神温泉を形成したことが女性・高齢者の支持を得ていることに触れ、「役場の職員が正しい情報を住民に知らせ判断してきたことが正しかった」と説明。迷走する民主党政権や名古屋の河村市政を分析、「住民は顧客でいいのが、安いサービスを提供すればいいのか。議論が不足している」と、憲法の立場が大事であることを強調。その上で、「すべての住民が公共に関わる権利を有する。職員はその専門性を発揮し、住民の行政参加を支えて欲しい」と訴えました。さらに、



ディーセントワークを実現する運動を

愛労働パート・臨時労組連絡会



39人が参加した第7回総会

愛労働パート・臨時労組連絡会第7回総会と第15回パート・臨時などの元気の出る集金が金山で行われ、39人が参加しました。

総会では、臨時教職員労組から、「1年更新の臨時職員」の行き先が決まらない。担任・部活を持っていない教師も多い中、不安定な

状況にある、豊橋市職労病院支部からは、「パートの看護師・検査技師150人中組合員は42人。今年の夏から一時金カット提案が当局からあり、臨時職員の職場集会を行った。学習会を重ねながら組合員拡大をしていきたい」などの発言があり有意義な総会となりました。

第2部は、全日空の客室乗務員の尾崎恵子さんから、労働組合として大きく要求を前進させてきたことや、現在問題になっている日本航空の不当解雇事件までを、興味深くまた楽しく講演していただきました。

ドキドキ・ワクワクがいっぱい 「最近、どうтус会？」

学 事 労 青 年 対 策 部

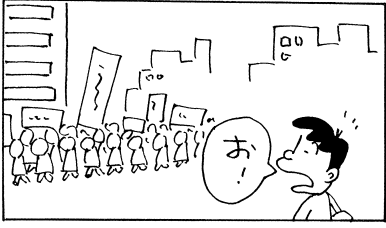
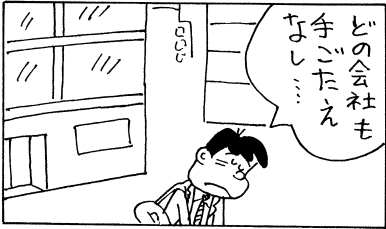
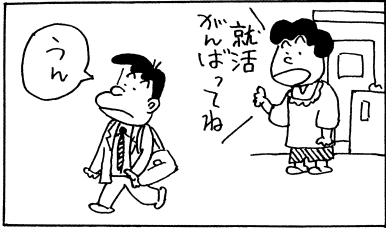
2月25日、学事労青年対策部は、「第5回最近、どうтус会？」を開催しました。今回は、「異業種交流」

をテーマに、ゲストとして同じ名古屋で働く保育士の仲間を迎えての企画となりました。

どんな話をしようか、どんな話が聞けるのか、ドキドキ・ワクワクがいっぱいで、会話も不思議と弾みます。参加者の「楽しかった」

ニクス笑ア7

芝罘 ☆ 友 衛 行



比べてみれば... やっぱ安い 自治労連共済の

自動車共済



職種をこえて仕事のことじっくり話せた

オフサイトミーティング(気楽な雰囲気の中でざつとくばらんに仕事の話をする)のように、当日発表された6つのキーワードをきっかけに楽しく話をし、交流をしました。

話す順番・どんなキーワードを選ぶかは運次第!

「違う職種の話は新鮮だった」「考え方の幅が広がるきっかけになった」「他職種というところで職場の仲間とは違った話ができよかった」「どの仕事も大変なんだとわかった」「休憩時間のとり方の違いなどにびっくりした」「職種は違っても地域で分かりあえることがあった」といった感想が

印象的でした。会の終了後は、懇親交流会も開催し、さらに楽しく交流を深めました。職種・立場をこえて交流することの大切さを皆が実感することができ、とても充実した企画となりました。これからも「異業種交流」を大切に、学事労青年対策部は魅力ある企画にとりくみます!

2011年勤労者通信大学

政治・社会のゆがみを 根本からただす学習活動を みんなで受講しよう!!

受講料 県本部半額補助